

京都教区時報

小教区の貢一加悦教会

連載一 東南アジアから見た日本の教会

特集—南部信徒大会所感表明

ときはじめでお目にかかる西山神父さんが親しそうに話しておられ、お二人ともカトリック信者でTさんは神父さんと洗礼での親子の間柄と聞かされ、驚いたのです。そのお陰で早速、西山神父さんへご案内で京都教区から連絡して頂いていた尻枝神父さんのオフィスにもお連れして頂き、またその後、尻枝神父さんはヴァチカンの「正義と平和委員会」までご同道願い、紹介して頂くことができました。

最初からすべてが順調に進み、人の出会いの不思議さをまず感じたのです。「正義と平和委員会」では、世界の人が苦しみ抜いた筈

マに向っていました。その中では乗客も長旅の疲れか、殆んど眠りに入っていましたが、私は逆に醒めてきて、ヴァチカン訪問と、二年ぶりに訪れるローマの回想に耽っていました。そんな時、ふと娘が手荷物のなかに入ってくれたのり巻きのおむすびを思い出し、同席の二人の女性にもおすすめし、食べながら談笑しているうちにローマの空港に到着。未明のアーバニア街道を市内に向いました。

第89号

發行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入
京都カトリック教理センター
広報室（Tel1761-9095）
編集責任者　村上透磨
編集部　教理センター
田中司教認可



平和と人権を

平和と人権を訴える市の意向を携えた私の乗った南回りの飛行機は、一路漆黒の空間をロー

二次世界大戦の反省にたつた国連が、人権と自由と平和の深いかかわり合いを謳つた「世界人権宣言」を採択・決議してから三十五周年にあたる今年、いまなお世界のいたるところで人権が無視され、多くの差別の存在が人々の間に不幸をもたらしている実状と、日本での現状

1月17日(火)	京都カテキスタ総会。
1月20日(金)	(社)カリタス理事会。
1月24日(火)	平城プラン合同会議。
1月25日(水)	司祭評常任委。
1月26日(木)	(学)カトリック学園理事会。 毎月開催予定。

一本の糸に

「世界の平和と京都市の繁栄、京都市民の幸せ」に祝福を受け、ミサ典書に異例のご署名を頂くことができました。三十年余りの「希望の家」のお手伝いを通じて知り合った多くの神父さんとシスター、ローマでのYさん、Tさんと終始お世話になつた西山神父さん、曾野綾子さんとの対談集「別れの日まで」を著された尻枝神父さん、ローマで二十年目に偶然再会できたOさん・ローマでの短かい滞在時間に横切つた数々の出来事の重なりは「偶然のことばでは説明でき得ない、なにか目に見えない一本の糸の存在を私は心の奥底に感じたのです。

王さまに對する親愛の情が謁見ホールに充ち溢れ、教徒でない私もかつて経験したことのない深い感動に目頭が熱くなったことを憶えています。その後、特別謁見室でヨハネ・パウロ二世法王さまから握手と抱擁を受けたのですが、そのときの柔かく温かい手の感触がいまも私の掌に鮮やかに残っています。

た。そして十一月二十三日、「正義と平和委員会」のガンデン長官のご推挙で、法王さまとの謁見が実現することになりました。一万数

二次世界大戦の反省にたつた国連が、人権と自由と平和の深いかかわり合いを謳つた「世界人権宣言」を探査・決議してから三十五周年にあたる今年、いまなお世界のいたることころで人権が無視され、多くの差別の存在が人間を不幸に陥れている実状と、日本での現状について長時間にわたって意見を交換しました。

梅林
信一

法務省人権擁護委員
京都市議員

1月17日(火)	京都カテキヌタ総会。
1月20日(金)	(社)カリタス理事会。
1月24日(火)	平城プラン合同会議。
1月25日(水)	司祭評常任委。
1月26日(木)	(学)カトリック学園理事会。
1月29日(日)	韓国問題学習会。
1月30日(月)	教区担当者会議。教理センター理事会。
2月 5日(日)	日本26聖人ミサ(小寺)
2月 6日(月)	司祭緊定期例会。
2月 11日(土)	OFM関西地区会(伏見) 終生誓願ミサ(ヌベール)
2月 17日(金)	園部幼司教座巡礼。
2月 19日(日)	教区修女連研修総会。 韓国問題学習会。
2月20日(月)	教区付邦人司祭月例会。
2月23日(金)	N D高校卒業式。
2月24日(土)	聖母高校卒業式。
3月 7日(火)	灰の水曜日
3月13日(火)	解放神学々習会(三条)
3月14日(水)	長岡幼稚教座巡礼。
3月15日(木)	W C R P 平和研究会
3月18日(日)	L M Aチエス(三条)
3月19日(月)	誓願ミサ(ウチタ)
3月20日(火)	司祭叙階式(三条)
3月21日(水)	聖母の家卒業式(四百市)
3月25日(日)	長浜教会30周年ミサ。
3月29日(木)	油の祝別ミサ(三条)

司教の足どり

58年11月～12月



- 11月
1日 國部聖家族幼30周年ミサ。出国
2日 WCRP(ソウル市)
明洞大聖堂早朝ミサ。WCRP
(諸宗教・韓日会議)帰国。
第5回ウォーカーソン(約40)
MM管区長と面談
4日 平城NT合同会議(奈良)
5日 精華聖マリア幼30周年。神の園
訪問。
6日(日)河原町ミサ。共同墓参。
7日 司祭評定例会。
9日 諸宗教デスク訪問。宣教司祭委。
10日 府中墓地(神学生と)神学院
司教常任委。
11日 こひつじの苑代表と面談。
12日 大使館訪問。
14～18日 宮崎・福岡サンスルビス、伊万里トライピスチヌ、諸宗教委)
19日 ローマへ電話連絡
20日(日)桂堅信ミサ。
21日 教区付邦人司祭月例会。丸山師、
古屋司教見舞。
22日 WCRP事務総長來訪。(部
キ連)役員会(京バブチスト)
特別聖年ミサ(京都南部洛星)
ネオ共同体第二段階典礼(郡
山)
23日
24日
25日
教区時報編集会

司祭叙階式

- 12月
1～11日 出国。信徒評アジア大会
(香港)。FABC東アジア会
(マカオ) 帰国。
12～17日 日本司教協總会。新任大使
WAカル一大司教歓迎会。
18日 人間ドック。
19～24日 米客多數。市民Xマス・ミ
サ。深夜壯嚴ミサ。
25日(日)クリスマス。
26日 教区付邦人司祭月例会
27日 平城NT合同会議(北浜)
28日 A教授來訪。N小教区代表と面
談。
29日 司祭評常任委。U市会議員來訪。
30日 N間諭会議。
31日 大晦日。

聖体奉仕者、宣教奉仕者選任式

- 日時 3月30日(祝) pm1時から
場所 河原町カトリック教会

パウロ 大塚喜直助祭

- 教会奉仕者 使徒ヨハネ田中賢一
宣教奉仕者 セバスチヤン柳本昭
時 3月29日(木) pm7時(聖香油ミサ)

- 27日(日)登美ヶ丘堅信ミサ。
28日(日)ネオ共同体祈り段階典礼(郡
山)

ベルナデッタ列聖と聖年

一九三三年、キリスト御死去一九〇〇

年を記念する特別聖年開始を時の教皇、
ピオ九世が宣言されて、50年目、ヨハネパウロ二世は、一九五〇年にあたる昨年
と今年にかけて、贖いの特別聖年を宣言
され、当教区としてもそれに応え、田中司教は特別教書を發表して、この聖年を
有意義に過すための指針を示した。時恰
も、昨年12月8日、ルルドの聖女、ベル
ナデッタ、列聖50周年にあたり、ヌヴェ
ール愛徳会では、同会の精神を模範的に
生き抜いた聖女の靈性を默想探求しながら、各共同体にあって自らの靈性を見直
す努力を重ね、昨年、12月11日、その集
約的行事として、ベルナデッタ列聖50周
年を祝った。

さて、ベルナデッタがいただいた使命
は、あのルルドの聖水の陰に隠れて見落
されがちであるが、聖母は「ペニタンス、
ペニタンス(改心、改心)」とくり返さ
れ、人々が改心をし、神に立ち帰る事を
望まれた。ピオ九世が、特別聖年にあた
つて、ベルナデッタを列聖された理由も
ここにあると考えることが出来る。

事実、ルルドを訪れる人は、身体の病
が癒やされた数知れない多くの事実より
も神のいつくしみとゆるしを体验する奇
跡の方が多い事を見忘れてはならない。
間もなく特別聖年も終る。「あなたの改
心は?」と、マリア様が問い合わせられて
いる様に思われる。因みに2月8日はベ
ルナデッタの祝日である。

アシアと女性解放

Asain Women's Liberation

女性差別・民族抑圧からの
解放をめざして!特集——侵略と“性”
—韓国・沖縄・フィリピン・タイ—

アジア女たちの会

定価500円

マリア・クララはいま

—日本人にとっての「フィリピン」—

マリア・クララとはフィリピン
建国の英雄とされているホセ・リサールの小説に登場する女性の名前である。リサールは彼女にたくしてフィリピンそのものを表現した。そのためマリア・クララという名は、フィリピンの人々にとってフィリピンそのものを象徴するものとなっている。

日本カトリック正義と平和協議会
フィリピン委員会編著
定価500円

贖いの特別聖年

教皇さまの特別聖年の教書を基に
贖いの秘義とその恵みの適応について
解りやすく説明された指針書です。
壮年会、婦人会、青年会、修道会など
の研修資料に、又御家庭で御利用
下さい。

浜尾文郎著

新書刊・定価490円・税200円
聖パウロ修道会・中央出版社
〒160 東京都新宿区若葉1-5

司祭・修道者・修道女懇談会



忠実に神を慕ひ歩む人々の群衆

正月四日、恒例となつた新年の司祭、

修道士、神学生の懇親会に、今年は修道女達もお招きして、例年より華やかに、この会が開かれた。(華やかにとは、皆がお若いと云う事ではありませんぞ。)

11時から始まつた。ミサに約50余名の

司祭、それに約30名の修道女が加わりミサによつて開始。ミサこそ、二重の意味において一致のしるしであります。祈り、御言葉、信仰の一一致による交流(分かち合い)コミュニケーションだけでなく、聖体を通じて結ばれる(コミュニケーション)によつても私達がみな一つの靈的家族を構成するものである事を体験し合つから

ではと言う話がまとまり、呼びかけたところ、默想会其他で出席できなかつた会員は、司教は、神の奉仕と共に召された私達が共に会し、共に祈る事を感謝すると共に日頃の労をねぎらい、およそ、

ミサ中司教は、神の奉仕と共に召され

た私達が共に会し、共に祈る事を感謝す

ると共に日頃の労をねぎらい、およそ、

次々な、話をされた。今年は、贅いの

精神、シノドスの精神、新しい教会法の

精神を自分達のものにする事が望まれる

年である。

司教のもとでこの会も7回目を迎えるが、その七年の間、教区ビジョン作りを中心

にした大きな動きがあつた。公会議後、

20年を経た今、公会議の精神も少しづつ

芽ばえつつある。公会議の精神に促つて

作られた、ビジョンも、ビジョンアレル

ギーとか云う新語も生まれ、なかなか、

理解される事はむづかしいが、しかし、

推進委員会も設けられ、又各方面の努力

によつて少しづつ芽ばえつつある様に思

う。教皇のメッセージと、アジア司教会

議の動きもこのビジョンに相通じるもの

があると思う。

です。

教区に働く司祭全體の交流を少しでも確めるものとして教区では、新年の懇親会、夏の研修会、そして聖木曜日に行われる聖香油のミサをあげる事が出来よう。

今年は新年の懇親会にシスター達を呼ん

ではと言う話がまとまり、呼びかけたと

ころ、默想会其他で出席できなかつた会員は、司教は、神の奉仕と共に召され

た私達が共に会し、共に祈る事を感謝す

ると共に日頃の労をねぎらい、およそ、

次々な、話をされた。今年は、贅いの

精神、シノドスの精神、新しい教会法の

精神を自分達のものにする事が望まれる

年である。

司教のもとでこの会も7回目を迎えるが、

その七年の間、教区ビジョン作りを中心

にした大きな動きがあつた。公会議後、

20年を経た今、公会議の精神も少しづつ

芽ばえつつある。公会議の精神に促つて

作られた、ビジョンも、ビジョンアレル

ギーとか云う新語も生まれ、なかなか、

理解される事はむづかしいが、しかし、

推進委員会も設けられ、又各方面の努力

によつて少しづつ芽ばえつつある様に思

う。教皇のメッセージと、アジア司教会

議の動きもこのビジョンに相通じるもの

があると思う。



通じ、又香港会議で、アジアにおける信徒の役割についての討議に参加する等の貴重な体験をする事が出来た。

21世紀は新しい靈性の深まり、特に東洋に期待がもたれている。

アンドレアの事を思う時、いつも陰の重大な奉仕者としての姿、3度ほど福音書の中に現われる彼の役目は、常にキリストのもとに誰かを導く、その様な陰の役割を果たしている彼の姿は福音宣教のモデルとして尊び倣いたい。

教皇は平和のメッセージにおいて、新しい心から生まれる改心を勧めておられる、主のみ業の中に置かれている召出しへを口にせずともふえている事も事実です。教会の動きの中で特に修道女達の努力を賞讃したい。シスター方は自分のカリスマとアイデンティティ(自分の社会における固有な役割と使命)を探求し、謙虚に神に帰依し、会のわくを超えて協力をし合うとしている姿に希望をもつてゐる様、主における信頼、愛、希望における一致の中に生きていきたい。以上の様な内容のものであつた。

ミサ後、地下室において、ヴィアトーレ会の神父様方の司会のもと、楽しい時を過した。今度は、歌と余興、ゲーム、そして食べる事による、コミュニケーション。食事は十分にあり、口の悪い連中はシスターが来たら違うな。しかしこれは全くの誤解。ホテル側の全くの好意によるものでした。神に感謝しております。今年はネズミ年ですね。

後記 タイトルに三匹のネズミが隠れています。

三忠、この忠を何に忠なるかはみな様でお考え下さい。三シン(神親心)に忠か。四シンに忠か(神親心身)其他いろいろ。

忠とは中てる心。何にあてましようかね。願わくは私達の忠実が神様にあつて実現します様に。

聴覚障害者大会、平和句間等の関わりを個人としても、東西靈性交流、部基連



銀祝

おめでとうございます

浅田年夫師 3月21日 (西陣教会)

斎木嘉作師 3月21日 (教区事務所)

竹島幸一師 5月23日 (ドミニコ会)

モンレアル・エウヘニオ師 6月14日 (エスコラビオ修道院)

東門陽二郎師 12月21日 (河原町教会)

ライリー・ロバート師 M.M. 6月13日 (米国ロスアンゼルス日系人教会)

ヌヴェール会 銀祝 シスター・ジヨセフ下田

シスター・マリーテレーズ惺

シスター・ジャンマリー岡田

永久誓願 シスター・モニカ村上

シスター・マリーテレーズ大森

シスター・マリーエンマヌエル北村

●聖香油のミサについて

列年、聖木曜日 (59年は4月19日) ですが、今年は3月29日(木) pm 7時から行われます。

○アジア修道女会議 (AMOR) の事務局 (ASC) 日本へ

AMORは、日本等アジアで活動している16ヶ国の修道女会議であり、過去6回行われ、昨年9月台湾で開かれた第6回総会で、事務局 (アジア・サービス・センター) を京都河原町カトリック会館

に置かれた事になった。委員長にSr. リンミツテン (メリノール) 外4名の委員からなる。これはアジアに於ける社会問題、使徒職や使命、修道生活刷新や、会員養成など将来に向けての連携機関である。

●「社会と共に歩む教会」勉強会 2月12日 (日) 「福音の靈性と社会へのかかわり方」

講師 R・アビト師

3月11日 (日) 「大企業の成績」

講師 B・ヴィエクハウス師

3月11日 (日) 「研宗館」行事予定

●三重県カトリックセンター 「研宗館」行事予定

三重県信徒連絡協議会は現在建設中の三重県カトリックセンター「研宗館」の完成と協議会創立10周年を祝う信徒大会を6月3日に開催するのを皮切りに、本年の行事を決定しました。

7月、下旬頃県独自で侍者会を開催

8月、中高生の研修講座及びエンカウ

ントー
9月、使徒職養成講座 (基礎コース)
10月、三重県壮年大会
11月、三重県こども大会
本年もよろしくご指導をお願いします。
エンカウンターなどです。

（主催者一同）

お送り致しました。次回もよろしく御協

力下さいますようお願い致します。

去年11月3日に行われたウォーカー
ン募金額は四、三八一、〇〇三円にな
りました。みなさんの御協力を心から感
謝申しあげます。全額を韓国ラザロ村へ

●ウォーカー・ソン募金 四三八万 韓国ラザロ村へ

●日本26聖人殉教「長崎への道」巡礼
◇安芸神父様と共に第6回巡礼

2月11日 (祝) 午前9時 阪急梅田中央口

前西助役室前、又は国鉄天王寺駅中央

西出口前9時30分でもよい。

コース (天主寺・向日野教会・堺教会まで) 15km徒步巡礼

◇第14回巡礼

3月20日 (祝) 午前10時42分、赤穂線坂越

駅前集合 解散が6時頃の予定

コース (坂越・赤穂教会・帆坂峠・山陽線三石駅まで) 18 km

◇第38回 基礎コース

3月20日 (祝) 5月1日 (火)

場所 桐生・聖フランシスコ修道院

日時 3月17日 (土) ~ 20日 (火)

主催 京都カトリック会館

お問合せ先 京都カトリック教理センター

●信徒使徒職養成コース

◇第37回 基礎コース

3月17日 (土) ~ 20日 (火)

場所 高松・聖母被昇天修道会

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

あなたの良き隣人として カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可) 聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下 安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
電話 (075) 312-7829
(075) 771-7577

★イエズス会 井上、安芸神父同行。
いずれも御ミサがあります。
持参品 弁当、ロザリオ、雨具の用意
●雨天決行 (雪も可) 一般参加歓迎
お問合せ先 075-752-0057 (761-9095)

六甲学院内本田周司氏まで



地域とともに歩む教会バザー

大津教会

大津教会（山田神父）では毎年10月末の日曜をバザーの日と定め、カトリックの精神を理解し、共に活動している地域社会との連携を深かめるを主旨として行っている。

今年は10月30日大津教会と11月3日瀬田幼稚園にて開催。両日とも秋晴に恵まれ市民約九百人参加、大きな成功を治めた。

このバザーには大人約一八〇名奉仕し、地域性として、教会学校、園児、スカウトの子供達の参加が多く、したがって催しにもガールスカウトのパレード、スカウトの展示、教会スライド・ゲームなど色々工夫をこらしている。また、身体障害者の共同作業所の方々も参加され、バザーを通しての出会いを大切にしていく

ウォーカーソンに二年参加して 長浜 はるみ

文責 バザー委員代表 鈴木 唐夫



私達日星高校の生徒は11月19日、舞鶴市で京都教区話合いの結果社会福祉事業団体への献金・インドの恵まれない子供達の教育資金に、また身体障害者のため聖堂内へ車椅子を入れるようストップの設置費用に、一部は未来を担う教会学校などの子供達の育成資金にしている。バザー運営上特に配慮している点は、

方や先生のご

家族も含め63人が参加しました。去年は8キロ歩きましたが、今年は二年目でしたので二年目の人の達の希望を入れて10キロ歩きました。私は二年目ですが単なる募金活動よりは、こういう方法でお金を集め方が精神的にも負担がなく、積極的に取り組めたような気がします。又、街角に立つて一人で募金活動をしているよりも、一団となって表通りを歩くでの人々の関心をひくこともできます。

スポンサーはクラスメイトや先生ですが、近所の人達に頼めばまつとウォーカソンというものを広められると思いまして。しかし、実際に歩いてみて（去年も後）課題とし、地域にとけこむ教会活動として教区ビジョンにそくした分かち合いで共に汗を流すことの大変な意義と喜びを感じとっている。

そうだったのですが、こんなに多人数の一団が大きな旗まで持つて歩いているのに、通行人で振り返つて見る人や、「何をしてるのですか？」と聞く人はあまりありませんでした。みんなまつと人のしでいることに関心をもつてもいいのではないかと思いました。ある新聞社の記者の方は、関心をもつて二年間ローカル版に出して下さり、これを市民のウォーカソンにしていかなければ同じ願いをもつてくれています。

私達は先生や先輩からこのウォーカソンを教えてもらい、心あたたまる体験をすることが出来ました。私も残り少ない高校生活のまとめの一つとして、又、来年これを続けることを後輩に呼びかけて卒業したいと思います。

進学先が大阪と決まった私は来年は、京都の方のウォーカソンに参加したいと願っています。（日星高等学校三年生）

愛の一握り



麦の一粒が多く実りを結ぶという教えたままに、信者の自分を通して始められたソロブチミストへ最善の姉妹の意—国連組織の一つの難民センター援助運動の結果、御所キャンプに57年にはお米を千二百キロ、58年には千九百キロをそれぞれクリスマスプレゼントすることができました。この運動によって感じましたことは、僅か一握りのお米が命のシンボルとなり、大きな友愛と善意の輪となつて予想以上に広がつたことです。

国境を越えた愛が芽生えましたのは、私がはからずも信者の一粒であり、それをこのクラブが深く理解してくださり、その愛の架け橋にシスター米屋が蔭の存在としてご指導ご鞭撻下さった賜物であります。この運動を支援し、成功に導いて下さいました近隣クラブの皆様方と多くの人々に深く感謝し、この一事実が地の塩となつて、より豊かな心が育くまれることをお祈りしたいと思います。

陽を射さぬ 人に陽を寄す 心をば

あたえし神に ただ祈るのみ

伏見教会 坂田 輝子

二年目のバザーに参加して、多くの人達の希望を入れて10キロ歩きました。私は二年目ですが単なる募金活動よりは、こういう方法でお金を集め方が精神的にも負担がなく、積極的に取り組めたような気がします。又、街角に立つて一人で募金活動をしているよりも、一団となって表通りを歩くでの人々の関心をひくこともできます。

スポンサーはクラスメイトや先生ですが、近所の人達に頼めばまつとウォーカソンというものを広められると思いまして。しかし、実際に歩いてみて（去年も後）課題とし、地域にとけこむ教会活動として教区ビジョンにそくした分かち合いで共に汗を流すことの大変な意義と喜びを感じとっている。

そうだったのですが、こんなに多人数の一団が大きな旗まで持つて歩いているのに、通行人で振り返つて見る人や、「何をしてるのですか？」と聞く人はあまりいませんでした。みんなまつと人のしでいることに関心をもつてもいいのではないかと思いました。ある新聞社の記者の方は、関心をもつて二年間ローカル版に出して下さり、これを市民のウォーカソンにしていかなければ同じ願いをもつてくれています。

私達は先生や先輩からこのウォーカソンを教えてもらい、心あたたまる体験をすることが出来ました。私も残り少ない高校生活のまとめの一つとして、又、来年これを続けることを後輩に呼びかけて卒業したいと思います。

進学先が大阪と決まった私は来年は、京都の方のウォーカソンに参加したいと願っています。（日星高等学校三年生）

所感表明

11月23日南部信徒大会における三人の代表によるみことばについての所感概要

第一朗読——レビ記25章

シスター富谷 恒子

私たち「贖いの聖年の集い」のため、今日はここに集まっています。この聖年という行事が昨日や今日始まつたものではなく、今から三千年の昔に始まつたものであると知つて驚きます。エジプトで奴隸にされて苦しんでいたイスラエルの人々が祖国に帰り、自由な生活を楽しむようになつたこと、身の廻りの僅かな物を持って逃げてきたのに、美しい緑の大地とそこに実る豊かな小麦、アドウや野菜を思う存分食べられるのも、ただ神様のおかげであると悟りました。すべての土地も財産も私のものではなく、神のみ手に戻すこと、また50年目毎に借金のために奴隸になつた人を無償で解放しました。これが聖年の意味でした。

それでは、20世紀に生きる私たちにとって聖年は何なのでしょうか。

私たちのおかれている教育の現場から

質的豊かさを私だけのものと考えないで、敢えて申しますが司祭、修道者の中にも、

私は「贖いの聖年の集い」のため、今日はここに集まっています。この聖年という行事が昨日や今日始まつたものではなく、今から三千年の昔に始まつたものであると知つて驚きます。エジプトで

私たちからも言葉さえかけられなかつたり、いじめられたりする生徒。外見の豊かさに惑わされ、一体何が価値があるのか、その判断基準がはつきりしていらない生徒がいます。

このような使徒職の場で、私達は神に生かされ、清貧、貞潔、従順の三誓願のうちに全存在をかけ生活させていただい

ています。今日出会う人、私と私の隣人、特に弱い立場にある人々をキリストの御苦しみに合わせ、ミサの中で神に奉獻し

ます。神の恵みを願い、神の愛を意識し、

共に同心しながら共に学び支え合い、お互に成長していくとしています。こ

のためには、御聖体にできるだけ近づき礼拝することです。この度合

に応じて、私達は弱い人、苦しんでい

る人の中にキリストを見い出していく

ためには、御聖体にできるだけ近づき礼拝することは、どういうことを指して

いふのでしようか。例え、これ迄のい

きがかりを捨ててといふことが一般によく言われます、私たちの共同体の中

にいるのでしようか。例え、これ迄のい

きがかりを捨ててといふことが一般によく言われます、私たちの共同体の中

にいるのでしようか。例え、これ迄のい

きがかりを捨ててといふことが一般によく言われます、私たちの共同体の中

にいるのでしようか。例え、これ迄のい

第二朗読——エフ4・25～5・2

田中 安弘

根本的には神からの賜物であることを感謝しつつ、すべての人と分かち合うことはないでしょうか。そのようにして、いつまでも古い人のままに通して、神に光と賛美を捧げていきましょう。また、も罰も許してくださいました主イエズスに感謝し、許し合うことにより、神の恵みでの不足により心のゆがんだ生徒。能力だけを重視する社会の影響を受け、友達からも先生からも言葉さえかけてもらえない

みると、家庭教育の低下、親子間の愛情の不足により心のゆがんだ生徒。能力だけを重視する社会の影響を受け、友達からも先生からも言葉さえかけてもらえない

謝し、許し合うことにより、神の恵みでの不足により心のゆがんだ生徒。能力だけを重視する社会の影響を受け、友達からも先生からも言葉さえかけてもらえない

でした。「互いに情深く、憐み深い者となり」という今日の手紙の短かい一言の中にも、決つして小さく読み過してしまつてはいけないものがあることを思い知らされました。

この御夫婦のような方を含めて、忘れられている人々、弱い立場の人々に対し、私たちには愛に基づいた生活をしているかを自ら問わなければなりません。これは小教区内外の諸活動についても問われなければなりません。又「小さな教会」と呼ばれる信者の夫婦、この一番小さな共同体においても、真実を語り合うことを怠り、慣ったままで日が暮れることができます。しかし、神の子、光の子としての生活を証してゆく為の、深いかかわりなかつたか、夫婦という名前だけのかかわりに安住して、神の子、光の子として生きているかどうかを問わなければなりません。今の時代、『愛』という言葉は巷に氾濫しています。しかし、それはキリストがお教えになる眞のアガペーの呼ばれるものとは程遠いものであります。

自分を愛するように隣り人を愛せよ」と仰言っているアガペーの愛は、言葉ではなく、身をもつて行動をもつて人々に示し、世に表わすほかない眞の愛であります。『愛のうちを歩きなさい』『愛に基いて新しい生活をはじめなさい』と、呼びかけて下さり、ご自身をもつて贈つて下さった主の愛に答えるように、私たちは今からその歩みを始めなければなりません。その為に、燃えるような使命感と徹底した愛の姿勢が求められていることを、私は感じております。(西院教会所属)

福音—マタイ25・31～40

杉本 審右

今から青年労働者の立場から話します。青年の多くは、一日の仕事が終るとそのまま帰宅し、一年間、変わることのない生活をくりかえしています。又、学生生

活の中でも、職場の中でも、いつも競争させられ、自分の仲間のことを考えられないが現実です。その結果、神の望まれない人間が作られています。本来、人間の向上は仲間との深いつながりを通して生れ育つものです。しかし、それさらも出来ない事実があります。

毎日残業で、友達と帰りに出会う約束もできず、計画すら立てられません。その為友達になる事も出来ない状態です。

このよくな状態の中で、福音の言葉が伝えられるでしょうか? 「皆さんのように思われますか?」『現代の日本の社会を見てどのように思われますか?』
「日本の社会は『もの』『おかな』いわゆる物質主義、消費主義、利潤追求だけの社会ではありませんか?」

今日の信徒大会のテーマ解説に出ていた個人として犯してないつもりでも、社会や集団となると犯す悪い罪、いわゆる社会悪にあるでしょう。この社会の中で新しく生まれたのであります。この社会の中で、ある青年達は福音的な人間像を探し求めています。青年労働者の現状を生の声で知り、おかれている状態を正しく判

断し、やるべき事を実行しています。

例えれば、ある青年は残業を断り、有休を取つて青年労働者と出会い、つながりを作ろうとしています。又、ある女性は将来母親として、自分達の子供の健康を考えていい加減に考えられています。

今から青年労働者の立場から話します。青年の多くは、一日の仕事が終るとそのまま帰宅し、一年間、変わることのない生活をくりかえしています。又、学生生

活の中でも、職場の中でも、いつも競争させられ、自分の仲間のことを考えられないが現実です。その結果、神の望まれない人間が作られています。本来、人間の向上は仲間との深いつながりを通して生れ育つものです。しかし、それさらも出来ない事実があります。

毎日残業で、友達と帰りに出会う約束もできず、計画すら立てられません。その為友達になる事も出来ない状態です。

彼はイエズス様を知りませんが、福音を生きています。

皆さん、イエズス様の言つておられる一番身近な小さい人のために時間を取り、話し、歩む事、つまり今日の福音を思い出してください。

このよくな社会を誰が考えていましたか? 気が付いていますか、職場の中で人間の事を大切にされていますか? 生活の中で自分とかかわっていますか?

人達の事を曖昧にしていませんか?

本当に大切なのは、社会や生活の中で流されているという事実を確かに見ようとする事ではないでしょうか!

(京都JOC)

信徒大会アンケートに以下の出席者(四〇〇名を越えたものと思われる)の中、二二八名(男子八〇名、女子一四八名)の人々がこの大会につけてのアンケートに応えて下さったのでその概略を報告しておこう。

(数字は%)

項目	よかったです	よくなかった	その他
回心の時	80	2	18
回表の時	92	6	2
心明かしの時	91	2	7
明合の時	78	9	23
布列の時	86	3	11
配配の時	54	18	28
願りの時	88	5	8
奏の時	87	3	7
演の時	90	5	33
願の時	85	30	12
急の時	37	15	25
現の時	73	8	24
報の時	67	9	24
現の時	67	39	24
報の時	37		

南部信徒大会アンケート

全般的な反省として、テーマ(主旨)がもう一つ不徹底であった事。そのため祭時の共同回心の意味が不徹底であった。共同祈願が長すぎた事。但しこれはかえって皆が積極的に参加したしではないか。最も評価すべき事は、信徒の努力と協力の賜物であつた事、更に中高校生のフォーラン及び聖歌隊は好評であつた。

京のキリスト教 昔と今

京都キリストン研究会活動について

三年前のこと。京都にキリストン研究会があると聞き、早速茨木神父に電話してみた。しかし、茨木神父は「日本二十六聖人記念碑」を四条堀川に建立したのを契機に引退、指導司祭はナドー神父になっていた。北白川教会の湊さんが事情に詳しいのでたずね、それから参加することにして現在にいたっている。

研究会の会長は亀岡教会の藤井さんである。研究会発足当時から出席されているので、そのいきさつを聞いてみた。それは、田中司教様が「京都市は二十六聖人発祥の地でありながら、人々は知らなさすぎます。また色々と不都合もある」とアピールされたことに始まる。これを受けて南壮連の者でやろうという機運が高まっています。

例会のやり方は、まず日本二十六聖人の祈りから始まり、キリストン関係文書の朗読、各自の研究発表、キリストン関係の遺跡、出版物、展示物、博物館・美術館・資料館などの新情報が報告され、豊富な資料など手に入ったものが配布されます。また、講演会などの報告と引き

シタン関係行事、遺跡・遺物の見学会などの企画・検討も行われています。

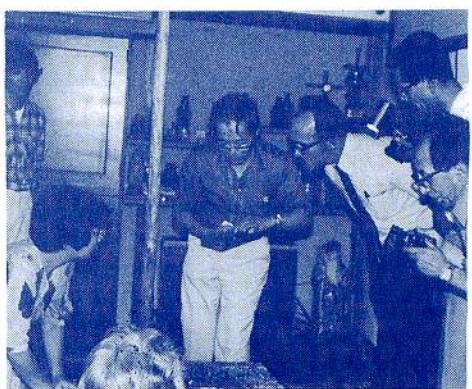
京都キリストン研究会の行事としては、恒例となっている「日本二十六聖人記念ミサ」を毎年2月、四条堀川の小寺ビルで田中司教司式のもとに捧げています。

このミサには百人前後の出席者があります。

毎月1回例会を持つて順次行なっていくことを決めた。

当初は「京都市のキリストンの案内がないのでそれをつくる」とした田中司教の意向を1つの目標とし、これからキリストンの信仰を我々と教区全体に植えて行くことを司教に確認して目的とした。少人数ではありますが、例会は毎月第3日曜日夜6時から、河原町教会地下の集会所で行われています。満5年経ちましたが、これまでに計55回の集まりが持たれています。「京都キリストン研究会」という名称ですが、特徴は規約も会誌もないことです。ただ集まつた者が会員であり、気楽に途切れなく続いていると見えます。現在は南壮連の方達が来られなくなつて、キリストンに興味を持つ者が熱心に続けています。

例会のやり方は、まず日本二十六聖人の祈りから始まり、キリストン関係文書の朗読、各自の研究発表、キリストン関係の遺跡、出版物、展示物、博物館・美術館・資料館などの新情報が報告され、豊富な資料など手に入つたものが配布されます。また、講演会などの報告と引き



これらの他に毎年遺跡見学をしていま
す。高槻教会周辺と北摂津の右近の遺跡、
遺物見学、安濃のキリストン遺物見学、

長浜教会への巡礼と見学、四条畷を中心とする河内キリストンの見学などです。この他、個人的な調査、研究も多数あります。

例会で報告されています。

更に研究会で手がけたものに、「京のキリスト教昔と今」のパンフレット配布、

「都の聖母像」の復製配布などがあります。

また、素朴な疑問として、カトリック新聞に載った「二十六聖人の中の3名は朝鮮の人」とした記事を調べ、結果は「資料がなく、日本人とする」とした学会の決定を調べ出したこと。慈山寺で「有馬ユスターの墓」が発見された時には調査に行つたり、内外からのキリストンに関する質問に答えたり、西陣の大島さんが発見した表具の下張りの中の「キリストン類族帳」を河原町の岡山さんが熱心に研究するなど、各々会員は忙しい中にも地道な活動を続けているといえます。

1

(フィリピンのルソン島、北部イバペラ
マニラから北へ400km)に住み3年
間、宣教に明け暮れている者として、
私の感じている日本の教会について述べ
てみたい。最近、フィリピンは、政治、
経済界がとても不安定なため、私の属する
教会への巡礼者は後を絶たない。以前
にも増して彼らの祈りには熱が入り、深
くなっている後姿にハツと驚いてい
る。彼らは様々な意向をもって、と
にかくよく祈っている。どこの教会も
入りやすい。南国ながらの開放的な建
築様式に心理的に左右され気軽に祈れ
る。教会は人々の慰め、希望を与え活
力を与える場となっている。

私の体験では、教会はよく話せる場、
聞いてもらえる場である。一方、私の
先入観からくる日本の教会は、敷居が
高いし暗くて入りにくい。主任司祭が
鍵を握っているので、あいにく不在中
に祈ろうとして教会に行つても中に入
ることさえ出来ない。カテキスタンがい
れば救われよう。そのため緊張感を
もつて十字架のもとに膝まづくのが常
である。こういう心情に迫られるので
当然、隣人に心を開くまでには、相当の
時間がかかる。

東南アジアから見た日本の教会

勇断をもって変革を!
Sr. 上野紘子



る。それを見て批判するつもりはないが、毎年お定りの行事が多いように思ふが、今年はアピールしたので昨年よりは増の参加者があった。というような古本を読み失望するのが常である。平和主義、気候風土の穏やかな日本の土壤が教会が信徒大会においても「今年もまたバザーのシーズンになりました…………」と言う調子で会議が進行して異例の行事や変革には相当の勇断を要し手を出しかねているので

私は常夏のフィリピンに住み、熱いや
暑い国民性の中にいてフィリピンの教会
の動向を眺めていると、過激派と保守派
が明瞭に分けられている。毎日、人々は
暮しの中に福音化を求めて戦っている。
教会は正義と自由を求めて貧しい人々と
共に真剣に戦い続けている。目的達成の
ために、多方面に呼びかけ輪を広げて團
結している。一方、制服の好きな国民党だ

ける、鐘で知らせるなどの指向性にあり、とにかく教会はいつも眠やかである。

けに教区のビジョンを貫くために、各グループはTシャツ（アビールの文字入り）を作り、おまけに行事のたびごとに新作のシャツを着る。司祭も男女の信徒も同デザインである。通りがかりに読み走るものも楽しいものである。人通りの多い町などには大文字の掲示板があり、いつも教区のビジョンを訴えて、人々を回心へと招いている。教会の正面には必ず切り抜き文字の聖句が掲示してある。カナルの主日ごとに変わるので楽しみである。日本の教会は生花を飾り清めておくという雰囲気で、福音化を促進しようという活気は出てこない。フリーピンクは長い間、植民地という土壤にあつたので教会が黙っていては、福音が伝わらないのが経験すみである。言葉で語りか

革を！」と叫びたい。

革を！」と叫びたい。

この頁は毎年一つのテーマに従つて、種々の角度から問題提起を試みているが、今年は「東南アジアから見た教会」というテーマのもとに特集を組みたいと思う。日本の教会は、アジア司教會議を中心にして、アジアに開かれた教会を目指す姿勢が高まりつつある。これを機会に、本時報もそういう事にお役に立つ記事を連載することにしました。

人には理解できよう　また各種の楽器を
賛美歌にとり入れる工夫もまだ残されて
いる。これは視聴覚の効果を過分に信じ
ている私のみの意見ではあるまい。

この頁は毎年一つのテーマに従つて、種々の角度から問題提起を試みているが、今年は「東南アジアから見た教会」というテーマのもとに特集を組みたいと思う。日本の教会は、アジア司教會議を中心にして、アジアに開かれた教会を目指す姿勢が高まりつつある。これを機会に、本時報もそういう事にお役に立つ記事を連載することにしました。

最近、日本の教会からフィリピンへのボランティアが増している。聖靈のよびかけを信じ献身している青年に期待する。日本青年海外協力隊をはじめ、教区単位個人のボランティアさまざまであるが、彼らはかけ橋となっている。国外に出てみて国内を見直し、日本の教会の良さと共に今、何をしなければならないかが解

加悦町には丹後半島の九つの町と同様に、若者達が都会に出て行き残る人々は案外若くはない。一年前の加悦の人口は九二五人で、その中の一〇五〇人は七〇才以上でした。町によく見られるのは靈柩車と神父様です、と人は云う。

イエズス様は自分の教会を通じて、お年寄りに愛と救いを与えると私は感じました。従つて信者の家に住む信者でないお年寄りと、信者の知つてお年寄りを訪問するようつとめました。信者達もその貴い愛の業を理解し協力しています。二年半ぐらいで「六〇人」のお年寄りは洗礼を受けました。

八〇才になつている山崎さんは洗礼を受けながら、自分の同年の婦人達に「早くイエズス様の清めを受けなさい。体の為にも心の為にもとてもよろしいです」と伝えづけています。

神様の恵みがたくさんありますから、かし信者達の一致と靈的な進歩の為に、去年の月末の調訪・東京・鎌倉の三日間、三四名の信者達の聖年巡礼は一番効果的だつたと思います。一緒に歌い、祈り、笑い、楽しむのはとても大きな恵みです。

神に感謝！

ノエル・レサール神父



老人を悲しませ てはならぬ 白髪は 知恵である

鬼退治の伝説や百人一首で知られた、大江山の山懷に囲まれた加悦谷盆地に、野田川・加悦の両町は肩を寄せ合う様に息吹いている。

私達の加悦（カヤと読む）カトリック教会は、町役場・小学校・中学校等と共に加悦町の中心部とも云うべき場所にあって、町の文化的中枢部とも云える一画を形成している。

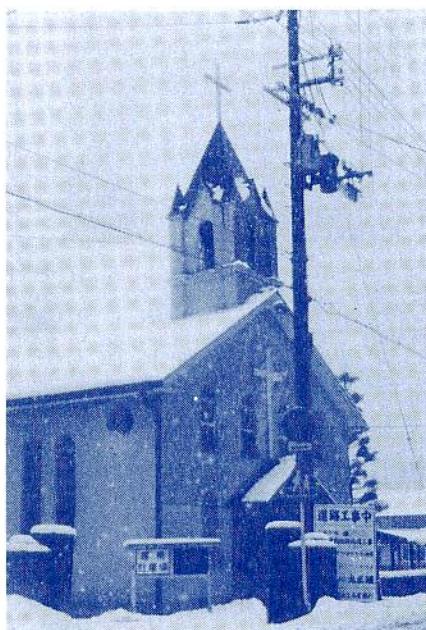
此の山間部の僻地とも思われる土地、実に堂々とした立派な教会の建物を見る

に所謂切支丹は相当の人数であつたであろう事は容易に想像出来るが、十七世紀に於ける宗門改めには、それが皆無と云ふ事で記録されており、隠れ切支丹の有無も勿論明らかではない。然し苔むしたマリア観音や宮津市内で見られる、切支丹灯籠の存在を通して、その裏面史の様なものを窺い知る事が出来る。

斯うした背景と土壤の中でキリストの教えが、再び花開いたと云う事は当然の帰結と云えよう。

雪の加悦教会

★小教区の貢★ 加悦教会



事が出来ると、此の地方とキリスト教、特にカトリックとの関りを窺う時、なる程と納得出来るのである。

その由緒も背景も定かでないとして乍らも、野田川町上山田地区には、マリア観音と呼ばれ、マリア子安地蔵とも崇められて来たお地蔵様があり、かなり古いものであるが、更に枝もたわわな実りを見せるのはやはり戦後と云う事になろう。

昭和二十三年舞鶴にレデンプトール会の管区が置かれ、宮津教会にジェームス師が着任、加悦地方の信者との接觸が始まり、更には信者宅に於てミサも挙げられる様になり、二十五年には加悦町に聖ガラシア夫人等の影響もあり、丹後地域

堂も建立され、日に日に信者の数も増していった。

筆者は懐念乍ら此の間未だ外地に在り、ジエームス師を始め多くの信者其他の便りを通して、加悦教会の素晴らしい成果を驚異の眼で眺めていたものである。

あれから三十餘年、聖堂も狭くなつて新たに現在の立派な聖堂の竣工を見、長年信者に慕われ続けたジエームス師は病を得てカナダへ帰国。現在はレサール師に依つて種蒔きが続けられて居る。加悦谷中の人を皆信者にする。を合言葉に、加悦教会の草創期を知る人は皆、真夏の太陽の下、汗拭き拭き遠くまで公教要理に通い、又吹雪に打たれ乍ら、伝導師を自転車に乗せて要理研究の場へ案内した事等を語る。

或る時はルルドの石積みに汗し合い、又或る時は教会の塔へ重い鐘を運び上げ、更に又一日の仕事の疲れも忘れ、夜更けまでホールの内装替えに精を出し合つた事等々、誰もが全てを忘れて一つ事に集中する姿は尊く、それこそが聖霊の尊さの結実であり権化と云う可きであろう。

火、木、土それぞれ、夜の信心会、分ち合ひ、出張ミサ等、全て今咲く花のより美しいと粧う姿であると同時に、それは更に速に将来に期待する、より良い土壤造りであり、種蒔きであろう。

全てを主に頼み、主に委ね、主に導かれる乍ら必ずや何時かは美しい花が咲き、良い実りのある事を希いつつ、信者達の小さな歩みは弛みなく今日も続く。

(記
宮本)

ダマスコ満上



ヒンズー教国、ネパールから

「ナマステ」

皆様の祝福とお祈りにつつまれて、ネパールに降り立った私たちは、早速カトマンズ修道院開設の準備を始めました。先ずはともあれ、お借りした家の大掃除です。何から今まで磨きあげ、分厚い煤に被われていた台所の戸の木地があらわ

れてくると、今度は必需品の買い出しです。敷物を三人で小脇にかかえ、一人がほうきやバケツをひっさげて町中を練り歩いたのですから、注目的となつたのは当然のことでした。

前庭には百日草、玉すだれ、ベゴニヤなどが咲きなかなかすてきな修道院です。早速「オープンハウス」、お客様を招いて、持参したお茶でお土産前を披露しました。ネパール製のお茶菓子を作つて頂いて、ゆかた姿もじとやかに汗だくなつておもてなしを致しました。

さて、いよいよネパール語の学習です。

音楽を楽しめる時代です。といふのは、たとえばモーツアルトやベートーベン、シューベルトの時代には、音楽はごく少ない限られた人たちのもので、多くの人々には、そのよう

今は、自由に、思うままに、兵士の姿にも、何となく心にせまるものがあります。現代は、その頃からみれば夢のようです。音楽が自由に、思うままに聞かれ、私ども日常生活に結びついた時代は、かつてなかつただろうと思われます。

音楽のよろこびを大切に

音楽はエジソンの発明した蓄音器とレコードが普及し発達したこと、ラジオやテレビ、映画が盛んになつてからです。昔の映画はエジソンの発明したキヤンプで、ローソクの火をともして、ポータブルでベートーベンや、バッハの名曲を聞いていた

音楽は世界共通のことば」といいます。音楽は多くの国々の心を結ばせ、人々の心を通わせ平和にみちびいてくれる大きな役割をしています。一口に音楽についても、毎日の生活の中では自然に耳にする音、例えば車の中から聞こえる力

教科書の半分を終え、テストがありました。お陰様で皆合格しましたが、新しい単語を覚える為の努力は涙ぐましいものがあります。「目はアカンベーのカンカー、歩くとクタクタになるからクッターフ」等々、ルガはいるかはいらぬかで「先生を待つてから勉強する」が「先生を煮てから勉強する」に変つたりするのです。迷文、珍文続出です。それでも何とか近所の人たちと片言ながら話が通じるようになつて来ました。どうか村にはいつての実地訓練でも成果が上がりますように……。

秋が深くなつて、ヒマラヤの山並みはいよいよ高く、夜空には満天の星が輝き、コオロギの鳴く音に日本に居るような錯覚を起します。

10月7日(17日)はネパール最大の祭、ダサイン(勝利の意)があつて市内は賑やかでした。これはヒンズー教のドウルガー女神が水牛にのり移つた悪魔を退治したのを祝う祭りで、カトマンズ市内いっぱいに仮面をつけた神々が円舞し、人々は窓から、花や米粒を投げかけます。教会でも御ミサのあと神父様が赤い米でできたティカ(額につける丸いもの)をつけて下さいました。

ムード音楽など、なつてゐる音楽に聞きいっている人は誰もありませんが、私たちがいたるところで出会う音にしか過ぎません。しかし、私たち人間の聴力は人によつても違つてですが、よい音を楽しみ、大切にし、音を深く知つて行きたいものです。現代は、幼ない頃から音に少しの心構えで、私たちもと音楽を大切にしたいものだと思います。さしつけでは、又、次の機会迄、皆様とお祈りの内に一致しつつ、カトマンズにて

香木や花々の香るここネパール国、深い信仰心の息づくこの國に、私達をお遣わし下さつた主が、私達の生活を道にこの自然に、人々の中に既に息づいておいでになる神とその恵みと証しすることができますように、これからもお祈り下さいませ。

それでは、又、次の機会迄、皆様とお祈りの内に一致しつつ、カトマンズにてシスター・イヴァンジエラ 今村シスター・ミリアム・テレーズ・金谷シスター・アンブローズ シスター・ジャネット 田中

*ナマステ』こんにちは

初めはうす気味悪く眺めていた野菜類も、思い切つて料理してみると大変おいしくものであつたことがわかり、せつせつと頂いています。ねばりがないお米も圧力鍋で炊けばおいしいですし、ネパール常食のダルにも、私達風の味付けでいろいろ工夫しています。果物も種類が増えました。

10月7日(17日)はネパール最大の祭、ダサイン(勝利の意)があつて市内は賑やかでした。これはヒンズー教のドウルガー女神が水牛にのり移つた悪魔を退治したのを祝う祭りで、カトマンズ市内いっぱいに仮面をつけた神々が円舞し、人々は窓から、花や米粒を投げかけます。教会でも御ミサのあと神父様が赤い米でできたティカ(額につける丸いもの)をつけて下さいました。

香木や花々の香るここネパール国、深い信仰心の息づくこの國に、私達をお遣わし下さつた主が、私達の生活を道にこの自然に、人々の中に既に息づいておいでになる神とその恵みと証しすることができますように、これからもお祈り下さいませ。

— タラはどのようなところですか。

「タラはハンセン氏病患者の国立療養所で、フィリピンの首都マニラからジブニー（乗合の車）に乗って約一時間半の所にあります。政府から認定される患者は三千人で、約三百人が療養所に入っています。」

— ボランティア活動をされようと思われた動機は何ですか。

「看護学校を卒業して一年あまり、病院勤めを経験しました。進んだ医療、豊富な薬、その中で特に最新の医療機械のある病院で働きながら、もしここに医療機械も無く薬も無かつたならば、患者さんに對して何をしてあげることができるのだろうかと、自分に問いかけた時、本当に人の生命をどのように見ているのか分からなくなってしまったのです。」

— ボランティア活動の内容は?

「患者の傷をきれいにして薬を塗り、包帯交換を手伝っていました。フィリピン人の看護婦もおられます、主に記録とか投薬のみで、直接看護をしているのは、看護助手（無資格の男性）一人と愛徳カルメル会のシスターたちでした。タラでの体験を通して、今迄に考えておられなかつた事や気付かれた事は、「タラに行くまでは見た事もなかつたカトリックの七つの秘跡の一つ、『終油の秘跡』というのを知りました。はじめ感じましたのは『あ！これは死の宣告だ！』『大変な事を…』『こういう事をしよいのだろうか』と思いました。日本

ならば、できるだけ患者に死を悟らせないようにするのが一般的であり、医師がする事もあります。しかし、タラでは患者たちが極自然に自分の死を見つめているのだと感じました。タラに行く以前は、患者が家族から離されて機械の中で死を迎える多くのケースに反撥を感じていました。日本ではあらゆる手をつくして、患者が家族から離されて機械の中で死を迎える多くのケースに反撥を感じていました。日本ではあらゆる手をつくして、

一人の患者の生命を際限もなく長くさせています。長く生きるのが幸せというのであれば、短い生涯を送る人々は大変惨めだということになりますが、終油の秘跡を受け、死の宣告をされている患者たちの気持が落ち付いていくのを見て、そこに本当の大切なものがあるのではないかと思つたのです。日本に帰ってきて、自分の中にある安らかな気持ちが生じてきました。そうかといつて決して医療の進歩を否定しているわけではありませんが、人間性を失つてはならないと思います。日本の医療はその辺のところを無視して、反対に生命的長さばかりを言つてゐるのではないでしようか。本当に体験を得ることができます。」

— ボランティア活動について、又援助の仕方についてはどうですか。

「ボランティアというよりは、自分が分からない事を何とか確かめたい気持で参りました。仕事を始めてみて、相手が

何をしてほしいかというよりも前に、そ

いようにするのが一般的であり、医師が取り上げて、邪魔をしているのではない、かと思えてきました。これではいけない、その人たちが自分たちで出来ることは自分でするようになるところまで手助けすることができます。」

— 新と言う字は、立木を斥ると書く。古い人を脱ぎ、新しい人を着よと言ふ事か。着なれた服は脱ぎにくい。それが良いものではないでしょうか。日本からの色々な援助、いくつかの医療グループが夏休みを利用して年一回一週間位の無料診療等があります。又そこには働く患者のため修道会が指導している女子の授産場があります。しかし男子の授産場は無く、今探しているところです。このよ

うなことからも、これから私たち

はどういうふうに援助してゆけばよい

かと共に考えていく必要があるのでな

いでしょうか。彼らがどうしたら幸福になれるか、自分で考え、自立していく

かを共に考えていく必要があります。

— 地元で一緒に養成する事が大事とい

う事ですね。又援助の仕方にも気をつけ

ていく必要があるということですね。

◇ 人間は、すぐ過去を心に残すし、あり

もしない未来が割り込んでいます。過去

未来が割り込んでくるだけ、一度だけし

かないこの『今』が疎かになつてゐるわ

けです。『今』だけを100%生きることは難

しいので、それができれば達人！（坂

◇ 一月は季節の分れ目、閉ざされた寒い冬から、花開く明るい春がやってくる。

こんな春に、群からはずれた子羊一匹。

清らかな水の湧き出る泉（オアシス）を

探し求めて彷徨つてゐる。どの渴きを潤すことができる様にと祈りつつ…。

（K）



時報が対話
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
心を開けあ
も編集者も、

社会と共に歩む人物記(12)

おどろきました／終油の秘跡



森 尚子さん

昭和58年6月～10月の4ヶ月半、フィリピン・タラの国立ハンセン症候群療養所で医療ボランティアとして勤務して滞在活動してこられた。

(大阪聖公会信徒・看護婦)

本紙を福音宣教に役立たせるため、
ご近所、お友だちにもお見せ下さい。